

令和6年度根本正顕彰会総会報告

(会員数 61名 出席者 26名 講演会参加者 30名)

日 時 令和6年5月12日(日) 午後1時30分から

場 所 那珂市中央公民館 2階 講座室

受 付 高畑精一理事、細貝幸雄理事

次 第 <司会・進行(小堀優理事)>

- 1 開会のことば(小堀理事)
- 2 会長あいさつ(山田正巳会長)
- 3 来賓あいさつ(先崎光那珂市長、小泉周司県議、大縄久雄那珂市教育長)
- 4 議 事(議長根本正治副会長)
 - ① 令和5年度事業報告(仲田昭一事務局長)
 - ② 令和5年度決算報告(横地富子副会長)
 - ③ 会計監査報告(鈴木正矩監査)
 - ④ 令和6年度事業計画案(仲田事務局長)
 - ⑤ 令和6年度予算案(横地副会長) (コロナ化を脱出して活動再開、会費を3000円に戻した)
 - ⑥ その他 なし
- 5 その他 なし
- 6 閉会のことば(小堀理事)



<ごあいさつ>



<山田会長>

会員高齢化が進み会員不足に悩んでいる。そのような中、東京矯風会からのご参加をいただいたことは大変ありがたい。社会の気風も変わってきている。以前のように、会活動を盛大に盛り上げていくことは難しいが、根本正顕彰会の本筋を見失うことなく、会の存在意義を示していきたい。



<先崎市長>

不屈の政治家根本正先生を絶えず発信し続けることが大切。国民・県民の為、子どものために活動された人物について、学校時代にその人物像に触れさせたい。瓜連庁舎の活用、水郡線開通90周年、岩上二郎先生の功績などへの対策も十分に考えていきたい。一人ひとりが、顕彰会のメッセンジャーとなる覚悟で進んでいきたい。



<小泉県議>

水郡線敷設の背景を学びながら利用・活用も考えねばならない。歴史的遺産の継承を重視しながら、地域のコミュニティなどの発展を考えていきたい。

この度、入会もさせてさせていただいた。会員の立場からはもちろん、県会に於いても根本正先生の精神を活かしながら、積極的に文化面施策の充実化をはかっていきたい。



<大縄教育長>

根本正先生は、子供の立場に立って健全に自立した人物を育てようとした人物と認識している。教育委員会としても、平成30年から市教育の根底に据えて先生の生き方を学んできている。11月には、小中一貫教育10周年記念式典を開催する。そこでの根本正先生に学ぶ発表にも期待して欲しい。マンガ本の寄贈に謝意を示すとともに、ふるさと教室など社会教育にも生かしていきたい。

<会活動について>

会活動の基本事業を地道に続けていくことが「強さ」ともなる。「顕彰フェスティバル」は、菅谷地区まちづくり委員会のご理解を得て共催事業となった。那珂市中央地区での開催は、周辺への影響・刺激にもなる。「ゆかりの地を訪ねる旅」は、久しぶりに根本正先生の眠る青山墓地が中心となる。

『会報』の71号から100号までを3冊にして、那珂市立図書館に寄贈し、郷土資料コーナーに配架された。「根本正顕彰会」の存在を意識づけしていきたい。「先人記念館・記念室」の設置運動も継続していきたい。

<公開講演会>



講師 日本古生物学会特別会員 二階堂章信先生

演題 「かつて那珂市に火砕流が流れた」

※ 二階堂講師の都合により、門下生でもある理学博士菊池芳文先生に変更された。

<要約>



那珂台地は1100万年前頃誕生した。泥岩である瓜連地層の上に火山灰層がある。額田段丘の礫層や軽石質凝灰岩層などから、火砕流の跡がわかる。この火砕流は、瓜連春日川周辺から、門部西谷津の谷に向かい、東海村地区へと流れたと推定される。これらは、この周辺の地層や動植物の化石の様子から判断される。

火山の存在は、八溝山系の中に推定され、その爆発による火砕流が周辺を削りながら谷を形成していった。処々に残る奇岩などは、その名残であろう。

私は二階堂先生との出会いから師弟関係を保ちながらこの学界で学び続けることができた。根本正先生も、様々な出会いを通して不屈の精神を貫徹された。根本正先生の至誠・姿勢に学びながら今後も邁進していきたい。

講演される菊池芳文先生



令和6年度 根本正顕彰会総会

日 時 令和6年5月12日(日) 午後1時30分から

場 所 那珂市中央公民館 2階 講座室

次 第

- 1 開会のことば
- 2 会長あいさつ
- 3 来賓あいさつ
- 4 議 事
議長選出
 - (1)令和5年度事業報告について
 - (2)令和5年度決算報告について
 - (3)会計監査報告
 - (4)令和6年度事業計画案について
 - (5)令和6年度予算案について
 - (6)その他
- 5 その他
- 6 閉会のことば

以 上

【公開講演会】 (総会終了後)

講 師 日本古生物学会特別会員 二階堂章信 先生
演 題 「かつて那珂市に火砕流が流れた」

令和5年度根本正顕彰会事業報告

4月 6日 (木)	① 理事会 (年次事業計画・予算案準備ほか) (会場確認、講演会広報、総会準備、会員・来賓通知発送など)
5月 4日 (木) 5月14日 (日)	② 理事会 (総会準備) 総会、 公開講演会 講師 根本ひろ美氏 演題 「根本正と薬物問題」
6月 8日 (木)	③理事会
7月 6日 (木)	④理事会 (訪ねる旅・展示作品作成・顕彰フェスティバル準備ほか。 以降の理事会で、順次進めていく) 『会報』102号 発行
8月 3日 (木)	⑤理事会
9月14日 (木) 9月24日 (日)	⑥理事会 ゆかりの地を訪ねる旅 (方面；埴町、太子町、山方宿)
10月 1日 (日) 10月 2日 (月) 10月26日 (木)	中央公民館展示開始 (東側の窓側半スペース) 「ビリング氏への根本正寄贈品の里帰り展」～ 11月30日 顕彰フェスティバル (共催：戸多地区まちづくり委員会) ⑦理事会 (公開講座準備)
11月23日 (木)	公開講座 講師：海野徹氏、テーマ「顕彰会立ち上げ時の思い出」 ⑧理事会 中央公民館ホール展示終了 (撤去作業)
12月21日 (木)	⑨理事会
1月18日 (木)	⑩理事会 (『会報』第103号発行)
2月 8日 (木) 17日 (土) 19日 (月)	⑪理事会 ばら野学園小中一貫教育発表会 (根本正を根幹とする教育の成果) 製本『会報』3冊、市図書館へ寄贈 瓜連支所の利用について要望書、市長に提出
3月14日 (木) 3月19日 (月)	⑫理事会 (次年度準備等) 先崎市長に瓜連市庁舎再利用について陳情 (22日、同案件議長に)

※ 新規事業 ① 漫画本『根本正物語』複製 600部 (学校・他機関、会員に配布)
② 会報製本 (71号～100号) 3冊

基本的会活動

公開講演会 1回、 公開講座 1回、 顕彰フェスティバル 1回、
公民館まつり 1回、 ゆかりの地を訪ねる旅 1回、 『会報』発行 2回

一般会計

根本正顕彰会会計決算報告書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

金額単位：円

収入の部				
項目	予算額	決算額	比較増減	備考
会費	135,000	126,000	△ 9,000	一般会員54口×2000 新会員2名×3000 法人会員2団体×6000
雑収入	49	30,024	29,975	寄付日本キリスト教矯風会30000 利息1 定額貯金利息23
繰越金	174,951	174,951	0	前年度より
収入合計	310,000	330,975	20,975	

支出の部				
項目	予算額	決算額	比較増減	備考
通信費	50,000	29,486	△ 20,514	往復葉書・メール便
消耗品費	70,000	28,076	△ 41,924	用紙・事務用品・ホームページ維持費・残高証明書代
行事費	40,000	20,081	△ 19,919	講演会講師謝礼 飲物（総会・公開講座） 公民館展示物作成費
調査研究費	30,000	0	△ 30,000	
負担金	22,000	22,000	0	タバコ問題情報センター・国際交流協会年会費
研修費	80,000	48,618	△ 31,382	ゆかりの地を訪ねる旅
予備費	18,000	0	△ 18,000	
支出合計	310,000	148,261	△ 161,739	

差引残高	0	182,714	182,714	
------	---	---------	---------	--

特別会計

「地元から見た根本正伝」出版・その他積立金

令和5年4月1日～令和6年3月31日

収入の部				金額単位：円
項目	予算額	決算額	比較増減	備考
「根本正伝」・まんが売上	0	2,700	2,700	根本正伝4冊 まんが1冊
利息	0	16	16	定額貯金利息
前年度繰越金	1,023,318	1,023,318	0	郵便定額貯金 現金
収入合計	1,023,318	1,026,034	2,716	

支出の部				
項目	予算額	決算額	比較増減	備考
まんが増刷費	310,000	344,080	34,080	600部 東洋印刷(振込料込)
会報製本	50,000	33,550	△ 16,450	1部 東洋印刷(振込料込)
支出合計	360,000	377,630	17,630	

差引残額	663,318	648,404	△ 14,914	
------	---------	---------	----------	--

根本正顕彰会財産目録

令和6年3月31日現在

預金種類	区分	残高 (円)
現金 期末手許有高	一般会計	0
通常貯金 郵便局	同上	182,714
振替口座 郵便局	同上	0
一般会計合計(A)		182,714
現金 期末手許有高	特別会計	404
定額貯金 郵便局	同上	648,000
特別会計合計(B)		648,404
1 資産合計(A+B)		831,118
2 負債合計		0
3 正味財産		831,118

以上のとおり報告いたします。

令和6年5月12日

根本正顕彰会会長

山田 正巳

監査報告書

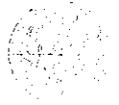
令和5年度の決算について令和6年4月16日、関係帳簿及び証拠書類等を監査した結果、その内容及び処理は正確であり適正であると認めます。

令和6年5月12日

根本正顕彰会

監事

海野宏幸



監事

鈴木正矩

令和6年度根本正顕彰会事業計画（案）

4月 4日（木）	① 理事会（年次事業計画・予算案準備ほか） （会場確認、講演会広報、総会準備、会員・来賓通知発送など）
5月 2日（木） 5月12日（日）	② 理事会（総会準備） 総会、公開講演会 講師 二階堂 章信 氏 演題 「かつて那珂市に火砕流が流れた」
6月 6日（木）	③理事会
7月 4日（木）	④理事会 （訪ねる旅・展示作品作成・顕彰フェスティバル準備ほか。 以降の理事会で、順次進めていく） 『会報』104号 発行
7月28日（日）	顕彰フェスティバル（共催：菅谷地区）
8月 8日（木）	⑤理事会
9月12日（木） 9月23日（月） ？	⑥理事会 ゆかりの地を訪ねる旅 （方面；東京青山墓地ほか）
10月24日（木）	⑦理事会（公開講座準備）
11月 3日（日）	公開講座 講師：寺門 厚氏 テーマ「未定」 ⑧理事会 講座終了後
12月1日（日） 12月5日（木）	中央公民館展示スペース 「展示」<1日（日）～1月31日（金）>（内容：活動報告） ⑨理事会
1月16日（木）	⑩理事会（『会報』第105号発行） 中央公民館展示スペース 「展示」終了、撤去
2月 6日（木）	⑪理事会
3月13日（木）	⑫理事会（次年度準備等）

基本的会活動

公開講演会 1回、 公開講座 1回、 顕彰フェスティバル 1回、
公民館展示 1回、 ゆかりの地を訪ねる旅 1回、 『会報』発行 2回

根本正顕彰会会計予算（案）

令和6年4月1日～令和7年3月31日

一般会計

金額単位：円

収入の部	前年度予算	前年度決算	本年度予算	前年予算 比較増減	備考
会費	135,000	126,000	183,000	48,000	61名×@3,000
雑収入	49	30,024	286	237	利息等
前期繰越	174,951	174,951	182,714	7,763	
収入合計	310,000	330,975	366,000	56,000	

支出の部	前年度予算	前年度決算	本年度予算	前年予算 比較増減	備考
通信費	50,000	29,486	60,000	10,000	葉書・切手・メール便
消耗品費	70,000	28,076	70,000	0	用紙・事務用品・ホームページ維持費 残高証明書
行事費	40,000	20,081	50,000	10,000	総会・顕彰フェスティバル・公民館祭り・公開講座
調査研究費	30,000	0	30,000	0	資料収集・資料コピー代等
負担金	22,000	22,000	22,000	0	国際交流協会・タバコ問題情報センター年会費
研修費	80,000	48,618	100,000	20,000	「ゆかりの地を訪ねる旅」補助
予備費	18,000	0	34,000	16,000	
次期繰越	0	182,714	0	0	
支出合計	310,000	330,975	366,000	56,000	

上記のとおり提案いたします。

令和6年5月12日

根本正顕彰会会長

山田 正巳

根本正顕彰会会員名簿

(あいうえお順)

R6.4.1

番号	氏名	郵便番号	住所	番地	電話番号	入会日	備考
1	會澤 義雄	311-0105	那珂市菅谷	663-57	029-298-1280	H9.10.12	顧問
2	秋山 敬一	313-0063	常陸太田市内堀町	257	0294-72-4880	H10.3.8	
3	秋葉 泉	311-0133	那珂市鴻巣	3289		R5.4.1	
4	浅川 清司	311-0117	那珂市豊喰	428-1	029-298-8570	H9.10.12	
5	石川 義光	311-0113	那珂市中台	566-45	029-295-1357	R3.5.16	
6	伊藤 喬章	311-0114	那珂市東木倉	952-15	029-298-6780	H22.5.30	
7	海野 徹	311-0131	那珂市北酒出	137	029-295-1721	H9.10.12	顧問
8	海野 宏幸	311-0106	那珂市杉	597	029-298-1614	H30.5.19	監事
9	海老根 敬	311-0105	那珂市菅谷	2468-104	029-295-3067	H24.4.1	
10	江幡 上税	311-0114	那珂市東木倉	255-3		R3.8.1	
11	遠藤 実	311-0105	那珂市菅谷	1941-226	029-298-6323	H11.6.27	
12	大部 泉	311-0105	那珂市菅谷	2215-1	029-298-2214	H21.10.11	
13	岡野 早子	311-0117	那珂市豊喰	332-1	029-298-0809	R2.4.1	
14	小国 幸子	311-0105	那珂市菅谷	2112-2	029-295-8313	R2.4.1	
15	加倉井 正	311-0105	那珂市菅谷	4525-11	029-295-3935	R6.4.1	
16	柏崎 和夫	311-0105	那珂市菅谷	1718-2	029-298-3457	H22.12.22	
17	加藤 純二	983-0044	宮城県仙台市宮城野区宮千代	1-2-9	022-235-8876	H9.10.21	顧問
18	叶野 毅	319-2103	那珂市中里	51-2	029-296-3185	H23.5.22	
19	川崎 満	310-0913	水戸市見川町	2563-716	029-243-5148	R1.6.1	
20	菊池 正則	313-0223	常陸太田市和田町	86	0294-85-1392	H10.11.22	
21	小泉 周尚	311-0133	那珂市鴻巣	3252-8	029-295-0715	R6.4.1	
22	小瀧 剛雄	310-0063	水戸市五軒町	2-2-28	029-224-9612	H14.7.13	
23	後藤 太	311-0114	那珂市東木倉	71	029-298-3734	H24.9.1	
24	小堀 優	311-0105	那珂市菅谷	665-39	029-295-0855	H30.5.19	理事
25	笹島 猛	311-0105	那珂市菅谷	2653-2	029-295-6060	H27.10.7	
26	澤田 浩一	316-0003	日立市多賀	5-7-15	0294-38-1648	H18.10.15	
27	鈴木 正矩	311-0105	那珂市菅谷	1941-290	029-298-7780	H13.1.12	監事
28	鈴木 芳雄	311-0107	那珂市南郷	1900-4	029-298-7187	H26.4.1	

番号	氏名	郵便番号	住所	番地	電話番号	入会日	備考
29	角谷 清	225-0011	横浜市青葉区あざみ野2-34-11	グランクレール104号室	045-902-5214	H9.12.9	
30	角谷 真理子	153-0042	東京都目黒区青葉台	2-1-10	03-3461-5061	H9.11.18	
31	角谷 秀雄	153-0042	東京都目黒区青葉台	2-1-10	03-3461-5064	H9.11.20	
32	田口 浩	310-0033	水戸市常磐町	2-8-2	029-226-1713	H20.9.7	
33	高畑 精一	311-0133	那珂市鴻巣	2787-3	029-295-2818	H9.11.20	理事
34	高村 博明	311-0117	那珂市豊喰	284-1	029-295-2278	H9.10.12	
35	(社)タバコ問題情報センター 渡辺文学	156-0054	東京都千代田区飯田橋2-1-4	九段セントラルビル203	03-3222-6781	H12.5.14	
36	鶴川 睦子	311-0107	那珂市額田南郷	340-1		H31.4.1	
37	寺門 厚	311-0134	那珂市飯田	2057-2	029-295-8757	H9.10.12	
38	富田 芳子	311-0105	那珂市菅谷	568-7	029-298-8549	H15.10.1	
39	豊田天功・香窓・英雄顕彰会	311-0509	常陸太田市上深萩町	1515	0294-82-3303	H16.3.1	
40	仲田 昭一	311-0121	那珂市戸崎	3486-2	029-298-7562	H9.10.20	理事・事務局長
41	(財)日本キリスト教婦人矯風会	169-0073	東京都新宿区百人町	2-23-5	03-3361-0934	H16.10.1	
42	日本禁酒同盟	180-0013	東京都武蔵野市西久保	1-8-2	0422-54-8555	H10.5.9	
43	根本 正治	311-0114	那珂市東木倉	147	029-295-8161	H9.10.30	副会長
44	根本 佳代子	114-0014	東京都北区田端	1-10-21		H23.12.15	
45	根本 重信	311-0114	那珂市東木倉	342-28	029-298-5664	H18.10.25	
46	根本 景子	311-0114	那珂市東木倉	342-28	029-298-5664	H24.9.6	
47	根本 幸雄	310-0902	水戸市渡里町	8	029-225-0218	H10.7.23	
48	根本 勤	310-0902	水戸市渡里町	14	029-225-1249	H10.10.6	
49	根本 誠	158-0083	東京都世田谷区奥沢	3-24-8	03-3727-2506	H10.2.23	
50	根本 満重	311-0114	那珂市東木倉	4	029-295-0754	H24.5.27	
51	根本 光明	310-0851	水戸市千波町	467-30			
52	初田 義雄	311-0122	那珂市戸	892	029-297-0628	H11.3.12	
53	細貝 幸雄	311-0111	那珂市後台	1491-141	029-295-5133	H27.4.1	理事
54	松岡 恒雄	151-0053	東京都渋谷区代々木	1-27-6	03-3370-3973	H9.11.21	
55	先崎 光	319-2106	那珂市静	1204	029-296-1865	H23.5.22	
56	先崎 一步	319-2106	那珂市静	1180	029-296-2421	H26.5.25	
57	増子 輝雄	311-0111	那珂市後台	2734	029-298-1690	H12.8.1	顧問
58	見川 泉	311-0114	那珂市東木倉50番地		029-298-7110	H23.4.1	
59	山田 正巳	311-0111	那珂市後台	1757-3	029-295-7167	H9.11.4	会長
60	横須賀 昭	311-0105	那珂市菅谷	4215-2	029-298-1888	H22.12.22	
61	横地 富子	311-0134	那珂市飯田	2599-2	029-298-3955	H9.10.12	副会長・会計

根本正顕彰会会則

(名 称)

第1条 本会は「根本正顕彰会」と称する

(事務局)

第2条 本会の事務局は会長宅に置く。

(目 的)

第3条 本会は那珂市の生んだ偉大な先人、根本正(1851～1933)を顕彰し、郷土愛を高めると共に、私達の生涯学習と地域社会における文化・教育・福祉などの向上に寄与することを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 根本正の業績の収集とまとめ
- (2) 広報 講演会 展示会 研修など
- (3) 根本正の資料・史跡保存管理
- (4) 根本正記念館(仮称)などの建設促進
- (5) その他、目的達成に必要な事業

(会 員)

第5条 本会の会員は本会の趣旨に賛同する個人並びに団体をもって構成する。
2 理事会の承認を経て特別会員をおくことができる。

(役 員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- | | |
|----------|-----|
| (1) 会 長 | 1名 |
| (2) 副会長 | 3名 |
| (3) 事務局長 | 1名 |
| (4) 事務局 | 若干名 |
| (5) 理 事 | 若干名 |
| (6) 監 事 | 2名 |

(役員を選出および任期)

第7条 本会の役員は総会において選出する。

- 2 役員任期は3年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 欠員による補充役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(顧問)

- 第8条 本会に顧問を置くことができる。
- 2 顧問は理事会の承認を経て会長が委嘱する。
 - 3 顧問は会長の諮問に応じて意見を述べることができる。

(会議および委員会)

- 第9条 本会の会議は総会、理事会とし、会長が召集する。
- 2 総会は毎年1回定期的を開催する。
 - 3 理事会は本会の目的を達成するため、運営に関して必要事項を審議する。
 - 4 本会の事業を運営するために委員会を置くことができる。

(会計)

- 第10条 本会の会計は会費、寄付金およびその他の収入をもってあてる。

(事業および会計年度)

- 第11条 本会の事業および会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日をもって終る。

(会費)

- 第12条 会員は次の年会費を納入する。
- (1) 個人 3,000円
 - (2) 法人および団体 一口 10,000円

(付則)

本会は、平成9年10月12日から施行する。

平成19年12月2日一部改定 平成26年5月25日一部改正

委員会

1. 行事・広報等委員会
2. 調査研究委員会
3. 資料・史跡保存管理委員会

平成18年12月20日改定

以下の4委員会を置く。なお、委員会には、活動の推進を図るために、理事会の承認を得て若干名の活動推進委員を加えることができる。

1. 広報・IT委員会
2. 行事委員会
3. 調査研究委員会
4. 資料・史跡保存管理委員会

公開講演会

演題 「かつて那珂市に火砕流が流れた」

講師 二階堂章信先生

日本古生物学会特別会員

※ 二階堂講師の都合により、門下生でもある
理学博士菊池芳文先生へ変更された。

ナカマチクジラ

1984年(昭和59年)に当時の那珂町から産出。産出した標本は現在、茨城県自然博物館で保管(レプリカは那珂市歴史資料館で展示)。

今から約40年前の5月の連休に当時那珂町福田に住んでいた高橋勇さん親子と親戚の子供たちにより額田南郷の崖で数本の歯と骨が採集された。場所は久慈川と支流の谷津川が合流する地点付近(水門近く)の谷津川右岸の岩の中から産出した。これらの岩は那珂町の基盤となる瓜連層と呼んでいる均質なシルト岩層で、新生代新第三紀中新世と呼ばれている時代に深海で堆積したであろうと言われている地層である。

発見後、専門家の先生方が本格的に発掘し、ハクジラの仲間であるマッコウクジラの歯約30本、頭部吻部、下顎骨の一部、周耳骨等発見したが全身骨格全ては埋積してはなかったと推定している。このクジラは歯の状態から若い個体だったろうと推定されている。このクジラの歯や骨を詳細に調べ、現在生きているクジラと対比したが不明なところが多く、取り敢えずナカマチクジラと登録された。

※ 新生代新第三紀中新世とは

先カンブリア時代	古生代	中生代	新生代		
	541.0 ± 1.0	251.902 ± 0.024	66.0	古第三紀	新第三紀
				中新世	鮮新世
				23.03	5.333 2.58

※ 川の右岸と左岸

※ 瓜連層

※ ハクジラとヒゲクジラ

※ クジラとイルカ

※ その他県内からのクジラ化石の産出

明治10年 水戸市常磐町から産出。マッコウクジラ類の下顎骨に付いた歯3本と遊離した歯1本、水戸層。国立科学博物館保存

昭和61年 東海村須和間の民家の裏の崖から産出。ヒゲクジラ類のニタリクジラと推定される上顎骨や前顎骨等の頭部先端部の骨、村松層。トウカイクジラと命名。茨城県自然博物館保管

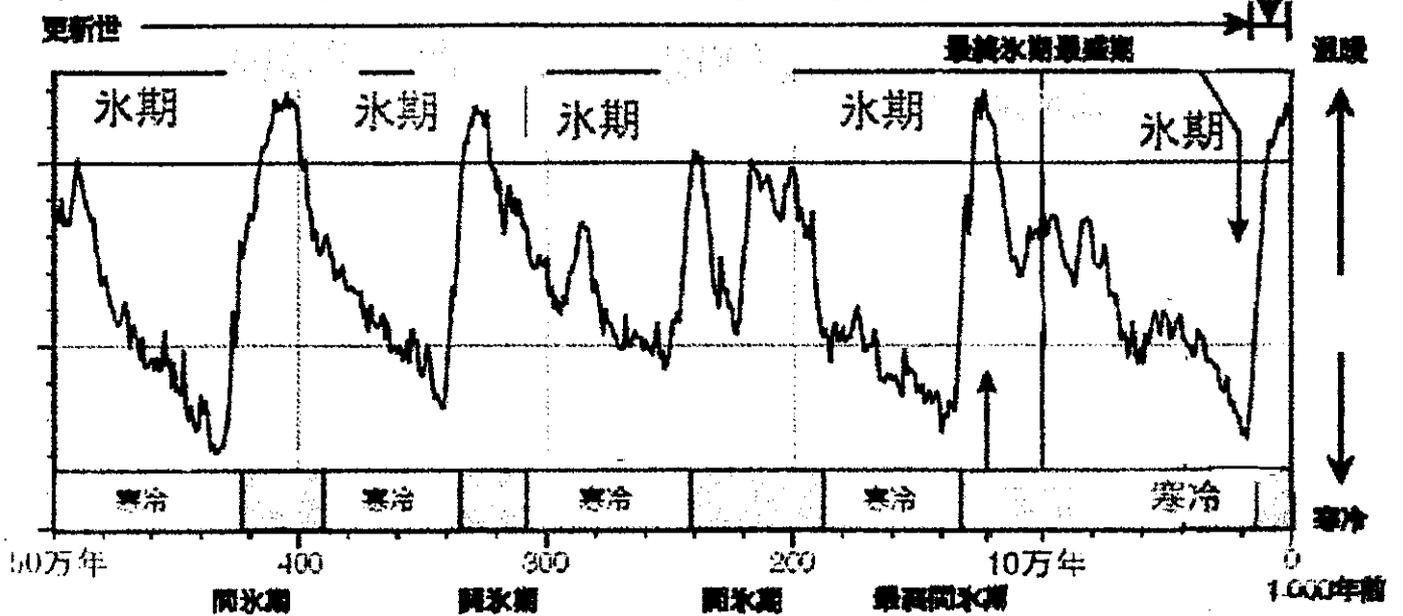
昭和62年 大洗沖7kmで底引き網にかかったイワシクジラの頭骨の部分の化石。240～320万年前に生存。

那珂市の地質概略

1 基盤の上に新しい時代の堆積物

- (1) 基盤となっている岩石は、瓜連層と呼ばれている新第三紀中新世に堆積した地層と一部、額田付近だけに存在する鮮新世に堆積した久米層
- (2) 基盤の上に順に見和層（成田層）最終氷期（12～13万年前）に関東地方に出現した古東京湾と呼ばれる海の堆積物、更に上には茨城粘土層（常総粘土層、那珂台地砂レキ礫層）と呼ばれている粘土層、所によっては砂レキ層（8～11万年前）、更に上には額田レキ岩層と上市レキ層と呼ばれている昔の久慈川や那珂川の河原の砂利層（6～7万年前）、そして関東西部の火山から飛んできた関東ローム層関東火山灰層、1～6万年前）、最上部に植物が腐食してできた黒土層から成る。

最近50万年間の氷期・間氷期変動(=海水準変動) 完新世(晩氷期)

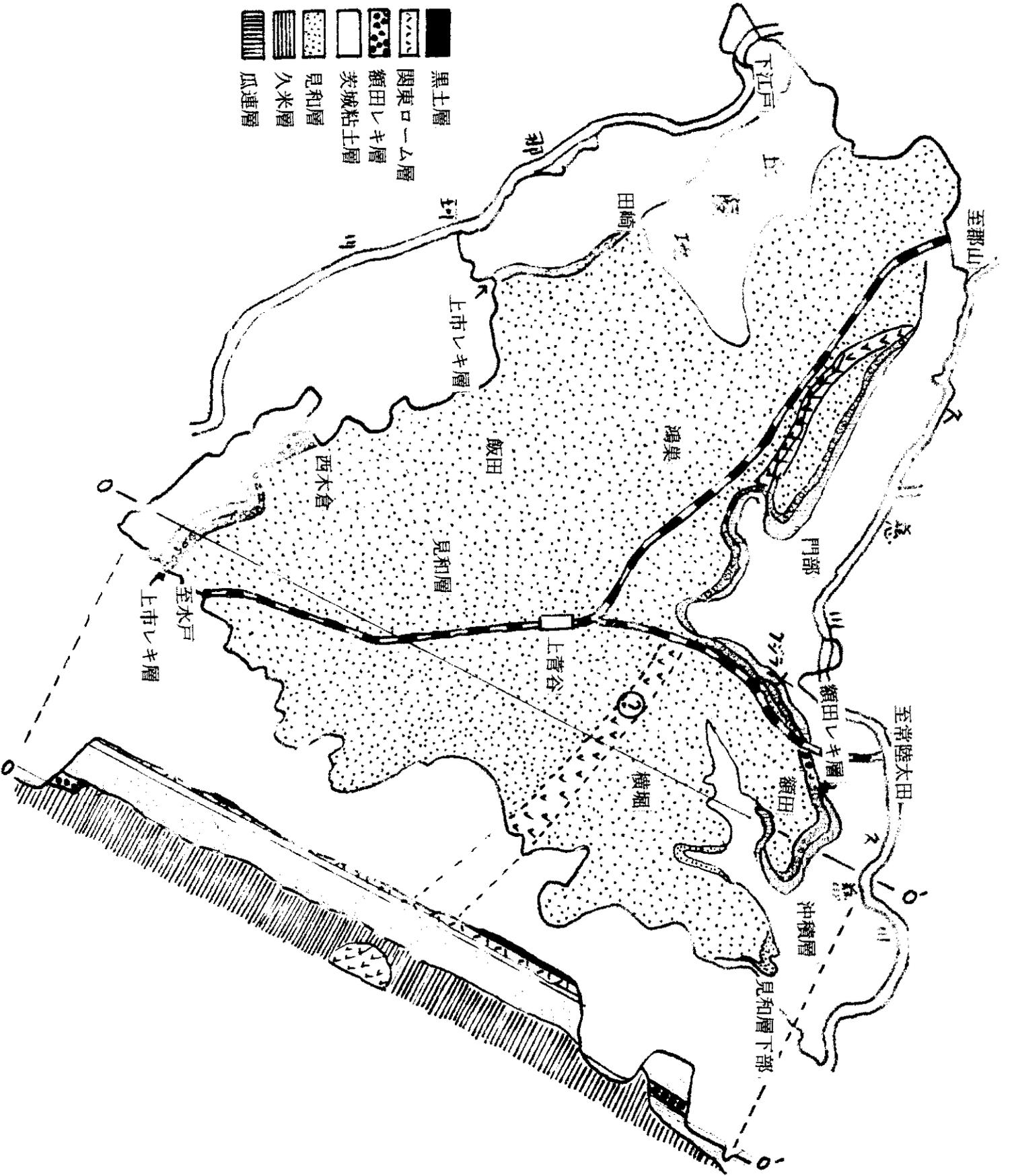


12.5万年前の関東地方鳥瞰図



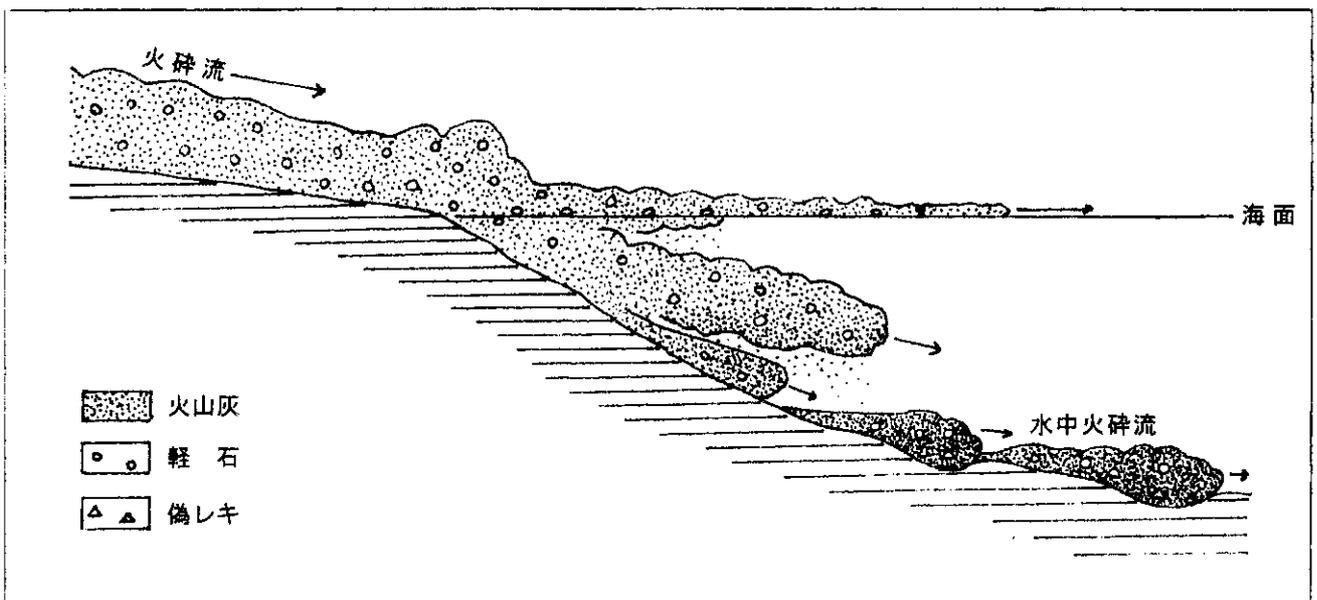
増田(1992)

- 黒土層
- ▨ 関東ローム層
- ▧ 額田レキ層
- 茨城粘土層
- ▩ 見和層
- ▨ 久米層
- ▨ 瓜連層

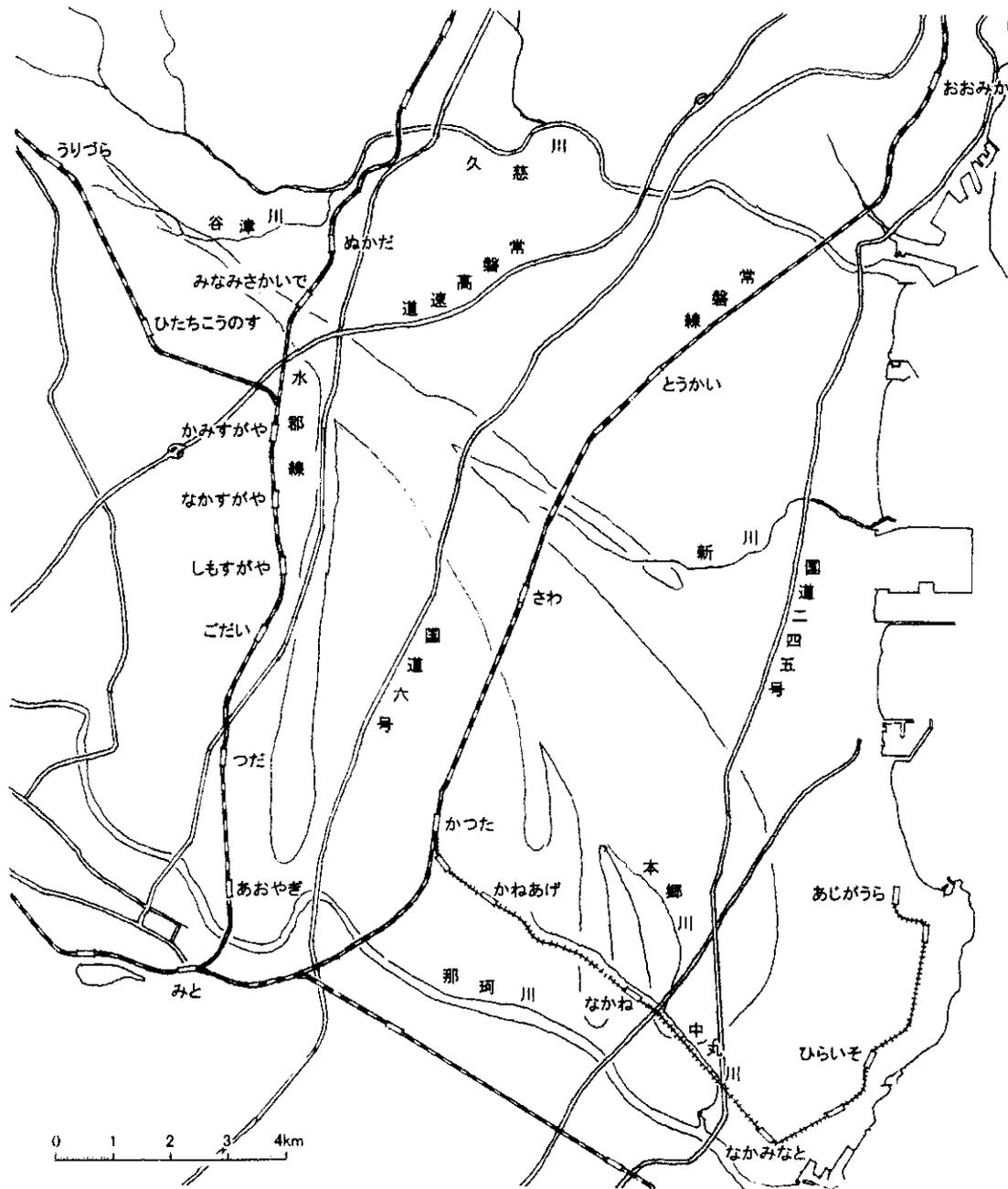


火砕流

- 1 火山帯の今と昔
- 2 東海村須和間霊園入口道路下の火砕流堆積物
- 3 那珂市谷津川の両岸や木崎小学校付近に残る火砕流堆積物
- 4 ひたちなか市本郷川周辺や阿字ヶ浦の軽石凝灰岩層
- 5 水中火砕流堆積物と底面に残された凹凸
- 6 那珂市などに残る水中火砕流堆積物の火山が爆発したのはいつか
- 7 どこに火口があったのか
- 8 日立市や周辺に残るこの時代の火山噴出物層
- 9 この時代の地殻変動



火砕流が海に入ると水中火砕流が発生する



水中火砕流の流れた跡（推定図）

自然を 探して

軽石あれこれ

軽石というと、多くの人は「ああ、浴室で足の裏をこするあの水に浮く石だな」と思い出します。辞典には「石英の成分の多いマグマが発泡して生じることが多い。気孔を多く含むため軽く、水面に浮くのがこの名の起り」とありました。軽石は浮石とも呼ばれ、火山から噴出したものです。

このような軽石が東海村でも採れる所があります。ただ、大きい物でも直径五センチメートルくらいで、足こすり用にするには小さ過ぎます。写真は、東海村公園墓地「須和間墓園」の下のがけで、軽石が密集している地層です。凹凸の境界より上の白っぽい部分に軽石が密集していて、拡大写真に見られるように、百円玉より大きい軽石もあります。境界の凹凸は、軽石を含んだ砂泥が下の泥層を削ってたい積したためにできました。

火山灰と違ってそんなに速くまで運ばれない軽石が、ここにこんなに多量にたい積しているのは不思議

東海村自然調査会副会長 二階堂 章信

です。今の火山は、関東地方では栃木県から西側、東北地方でも脊梁山脈から西側にしか存在しませんが、「この軽石を噴出した火山は、現在のひたちなか市近辺にあつたのではないかと推定している学者もいます。それは今から千数百万年も前のことです。

「軽石は、溶岩などに先立つて、火山活動の初期に噴出する」といわれています。日本のはるか南方の太平洋上に多数の軽石が浮いているのが発見され「近いうちに、火山の噴出で新しい島ができるのではないかと」と、時折報道されることがあります。「昔、東海村付近にもそんな事件が起こりかけたのか」と、この軽石層を見て遠い昔に夢をはせることができます。

蛇足ですが、園芸用土「鹿沼土」も軽石です。石のように固まっていないので、足をこする軽石とは見掛けが大きく異なりますが、成因は全く同じです。

(平成10年12月10日景)



拡大写真→

近くで火山活動があった証拠「軽石密集」

エイの仕業?

エイは大型の魚でへん平で、形が三角形やひし形、細い尾を持ち、その特異な形とユートラスな泳ぎは、どこの水族館でも人気のある魚です。

そして、形は似ていても、態々と泳ぎ回るエイもいれば、海底近くでこつそり移動するエイもあります。プランクトンや小魚を食べるエイや泥中の二枚貝やゴカイなどを好むエイ、食用のエイがいる一方で、まずくて食べられないエイもいるなど様々です。

ところが、これらのエイは昔もいて、奇様な痕跡を地層に残していることが最近分かってきました。

写真は、須和間霊園近くの豊岡・須和間線の道路の土手下に見られる地層の写真です。地層の境界面に「たこつぼ」のようなへこみが見られます。ちようと移植してなどで、丁寧に球形に穴を掘ったような形です。

このようなたこつぼ状のへこみは、近くの地層にも数か所見つけましたが、その成因が分かりません。海底で、自然の力でつくられたへこみとは、とても考え

東海村自然調査会副会長 二階堂 章 信

られない形なのです。

しかし、最近の学会誌に「一部のエイ類が、砂や泥の中に潜っている底生動物を摂食した際につくられた痕跡である可能性が高い」という記事が載りました。

すなわち、自然の海で生活するある種のエイは、食べ物を捕るために砂や泥などの海底に停止し、口の少し後ろにあるえらから海底面に向けて海水を一挙に吹き出します。この噴射の強さで海底面にはたこつぼ状の穴があき、砂や泥の中に潜っていたゴカイや貝類などが、慌てて表面にはい出てきたところを捕まえて腹を満たすが、このエイの摂食行動の常とう手段だそうです。

これがへこみの本当の成因かもしれません。



地層面に残された謎の穴

東海村を流れ下った火砕流

東海村の自然調査団副団長 二階堂 章信

自然がつくるものの中に、時として不可解なものが見つかることがあります。

一般に、地層と地層の境界は、平らな面で接しています。それは地層が、海や湖、川などの水中で堆積して形成されるために、平らになるのです。堆積した後に、地震変動などで地層が傾斜することはありますが、その場合も、地層と地層の間は平らな面で接したままです。

この地層の境界に凹凸がある場合は、「不整合」と呼ばれる状態で、上位の地層と下位の地層の間に、時間的な隔りがあるとされています。

左の写真は、須和間霊園入口の南側の崖です。地層の境界に激しい凹凸が見られますが、不整合ではありませんでした。この境界の上下の地層から出てくる化石に時代的な変化がないことや、隣接地域の調査から、不整合ではないことが分かったのです。

これは不整合ではないのに、なぜ凹凸があるのか、どう

うか？

この凹凸した境界をよく観察すると、下位の泥岩層の表面に、たこつぼの断面のようなへこみや、スコップで鋭くえぐり取ったようなへこみが連続していて、確かに不整合の凹凸とはちよつと違います。

境界のすぐ上の地層は、軽石を多量に含む粗い粒の砂岩で、明らかに火山噴出物が流されてきたものです。しかも、境界の凹凸の形状や、粗い粒の砂岩中の堆積模様などから、西の方から流れてきた堆積物だということが分かります。

ひたちなか市部^{ひたちなか市部}・田野^{田野}周辺には、昔、石材として利用されていた軽石質凝灰岩層が広く分布しています。この地層こそ須和間霊園入口下の崖に露出する軽石を多量に含む砂岩層と同じ地層で、昔の火砕流が固まったものです。これらの火砕流は、当時は海の中だった東海村をものすごい勢いで流れ下り、ひたちなか市部出



不可解だった地層境界の凹凸（須和間）

凹凸に湧りましたが、この凹凸が偶然にも須和間の片に残されていたのです。

（平成27年12月25日撮影）